

(案)

委員会名

東京2020大会レガシー特別委員会

発案名称

東京2020大会のレガシーに関する調査について

発案本文

令和3年7月23日に世界最大のスポーツ、文化、平和の祭典であるオリンピック・パラリンピック競技大会が57年ぶりに東京で開催されました。

この東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」といいます。）は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、一年延期しての開催、多くの競技が無観客で行われるなど、前例のない大会となりましたが、多くの国・地域等から出場したアスリートたちの活躍は、私たちに大きな感動と希望をもたらしました。

区内では、オリンピック競技のトライアスロン及びマラソンスイミング、パラリンピック競技のトライアスロンが実施されたほか、区内の一部がパラリンピック競技のマラソンのコースにもなりました。

区立芝公園では、オリンピック聖火リレーの点火セレモニーやパラリンピック聖火リレーの採火式が実施されるなど、区民にとって身近な場所で競技等が行われたことで、区民のスポーツに関する関心が高まったと言えます。

区は、多くの地域団体や企業と連携し、東京2020大会の気運醸成を目的として、平成30年及び令和元年にMINATOシティハーフマラソンを開催したほか、区内各所でカウントダウンイベント等を実施しました。

今後も、東京2020大会の感動や興奮、区内で実施された大会関連事業の軌跡を次世代に継承するとともに、参画と協働によって得られた地域団体等との連携、大会を契機により高まった「する」「みる」「支える」スポーツ活動や文化振興活動、国際交流活動などの取組を東京2020大会のレガシーとして継続し、さらに発展させる必要があります。

以上について、調査・研究を行うために本案を提案した次第であります。